



総研大ニューズレター

第76号 2014.9発行

●目次

【今月のトピックス】

UST-総研大「計算科学」共同セミナー	学融合推進センター
日本留学フェア・総研大国際連携活動 in 台湾	学務課
中高生セミナーのための科学セミナー	
「日本の宇宙科学のいまとこれから」	広報室
先導科学研究科 高校生体験実習 2014	先導科学研究科
総研大レクチャー「ワークショップデザイン講座」	学融合推進センター
プレスリリース	
「分裂酵母の32の野生株の全ゲノム配列決定」	
「メキシコ湾流の流路変化をもたらす	
北極海の水氷減少とユーラシア大陸の異常寒波」	
「学習能力の発達を調節するタンパク質を発見！	
～成長期ではたらきが、おとなの脳機能を左右する～」	広報室

【イベント情報】

主なイベント予定	
8月1日～9月5日	天文科学専攻 サマースチューデント(夏の体験研究)プログラム
9月1日～3日	総研大レクチャー「科学技術倫理と知的財産権—学術研究の適切なすすめ方 ① 基礎編」
9月2日～4日	総研大レクチャー「研究者のための社会リテラシー」
9月23日	第17回自然科学研究機構シンポジウム

【今月のトピックス】

● UST-総研大「計算科学」共同セミナー



平成26年7月29日(火)より8月1日(金)の4日間、韓国テジョンにある University of Science and Technology (科学技術聯合大学院大学) (以下、UST) のキャンパスにおいて、上記のセミナーが開催されました。UST は、総研大とよく似た、国立研究機関を基盤とする大学院大学であり、総研大との間で学生交換協定も結ばれています。UST のキャンパスは、テジョンの街の中心から離れたところに位置し、セミナーや研究に集中するには大変良い環境です。セミナー2日目には、テレビカメラが会場に入り、テジョン市ではセミナーの様子がニュースとして流れたようです。

本セミナーは、もともと、昨年夏に、UST の Un Woo Lee 学長が総研大(葉山)を表敬訪問され、10月には総研大の高畑前学長がUSTの十周年記念式典に出席されたことがきっかけとなって、始められることになったものです。今回のセミナーでは、日本側から7名の総研大生(情報科学専攻4名、統計科学専攻1名、核融合科学専攻1名、天文科学専攻1名)と、韓国側からは、UST や KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) の学生と研究所のポストドクなど約60名で、総数70名ほどの参加がありました。講師陣は、日本からは、天文科学専攻の富阪教授、機能分子科学専攻の齊藤教授、構造分子科学専攻の奥村准教授、核融合科学専攻の三浦准教授に加えて、学外から横浜市立大の木寺教授(生物物理学)と筑波大の石山博士(天文科学)の6名、韓国側からは、UST 傘下の研究所や外部の研究所から、天文科学、核融合科学、物質科学、計算科学、生物情報学などの分野の、8名の講師でした。これらの参加者以外に、学融合推進センターから3名の教員(平田、小松、桑島)と事務部から3名の職員がセミナーに同行しました。また、総研大執行部から、永山理事が同行し、2日目のバンケットでご挨拶頂きました。



セミナーは、朝8時半から(初日は9時から)から夕方6時過ぎまで、90分の講義が5つ続くという、かなりタイトなものでしたが、総研大の学生は全員全ての講義に出席しました。参加学生のアンケート調査を3日目の午後に行いましたが、参加学生の研究分野に情報科学や生物物理学が多かったのが印象的でした。学生の多くは、今回のセミナーに満足しているとのことでしたが、「90分の講義は長すぎるので、間に休みを入れて欲しい」、「講義によっては専門的すぎて分からないものがあった」などの意見もあり、次回のセミナーの参考になると思います。



セミナーでは、参加学生によるポスター発表も実施され、セミナー講師が審査員となって優秀なポスターが選ばれ、最終日の午後、ポスター賞の表彰が行われました。総研大・統計科学専攻の MD. Ashad Alam 君と UST (KRISS Campus) の Min Kyu Park 君がグランプリ賞、総研大・情報科学専攻の An Ruijian 君と Feng Jingyun 君、UST (Kier Campus) の Kashif Rashid 君と KAIST の Han Seul Kim さんが一等賞の表彰を受けました。



【学融合推進センター 特任教授 桑島邦博】

● 日本留学フェア・総研大国際連携活動 in 台湾

平成 26 年 7 月 18 日から 7 月 22 日までの 4 泊 5 日の日程で、田村理事（評価・国際連携担当）をはじめとし、三原智教授（素粒子原子核専攻）、伊藤憲二准教授（生命共生体進化学専攻）、標葉隆馬助教（生命共生体進化学専攻）、他事務職員 2 名の計 6 名が台湾を訪問し、日本留学フェアに参加する等、現地での広報活動・国際交流活動を行いました。

日本留学フェアは、日本学生支援機構が海外で主催する日本留学促進イベントです。台湾では 2 大都市の高雄・台北でそれぞれ一日ずつ開催され、200 以上の日本の大学・専門学校・日本語学校等が一堂に会し、各自のブースで自校の PR を行いました。本学の日本留学フェアの参加は約 10 年ぶりで不安もありましたが、手伝いに来てくれた修了生の呉慧軍さん（2013 年構造分子科学専攻修了・現国立台湾大学（NTU）応用物理学研究科ポストドクトラルリサーチフェロー）の活躍もあり、両日あわせて 30 名以上の学生と個別面談をし、本学の魅力や入試制度、経済支援について紹介することができました。留学フェアに来て初めて総研大を知る学生も多かったようですが、大学共同利用機関を基盤機関に持ち、そこで研究・学生生活を送るという本学のユニークな制度に、皆おおいに興味を持った様子でした。



また、台湾訪問の機会を利用して、台湾在住修了生を招いての懇談会、協定校訪問、国立台湾大学でのミニ総研大説明会、そして修了生研究室訪問を行いました。

懇談会では、2004年に本学天文科学専攻を修了し、現在は中央研究院天文及天文物理研究所（ASIAA）で活躍する浅田圭一さんの他、本学の教員と共同研究を行っている李後晶教授（NTU）、郭文華准教授（国立陽明大学）等が参加されました。懇談では田村理事が、「これまでの教員等個人間の交流や海外で活躍する修了生とのつながりを活かして、大学・組織間の交流に発展させ、総研大の国際連携を強化していきたい」旨述べると、参加された方々から非常に好意的な反応があり、交流発展のための様々なアイデアが寄せられました。

協定校訪問では、本学先導科学研究科と部局間協定を締結しているNTU生物資源農学院を訪問し、研究科長の徐教授をはじめとする6名の先生方とミーティングを行いました。ミーティングでは、田村理事が学長理念を含む大学紹介を行った後で、今後の両大学の交流発展のための具体的な活動について話し合われました。今後の交流を具体的に推進するため、共同研究等を通して既に交流がある両大学の教員をペアで指名する「クロス・ファカルティ・アポイントメント」を行い、両大学の交流強化の中心を今後担っていくコアファカルティを相互に確認しました。



上記の他、最終日には、呉さんの計らいにより、NTU 応用物理学研究科で総研大ミニ説明会を開催、急な催しにも関わらず呉さんの後輩である修士課程の学生10名強が参加し、田村理事が行った総研大紹介、伊藤准教授が行った「社会と科学」ミニ講義に対して、いくつかの質問が寄せられました。また、浅田さんの計らいにより、浅田さんが所属するASIAA 井上充博士の研究室を訪問し、浅田さんのご活躍の様子を伺うとともに、既にある天文科学専攻とASIAAの交流を大学として積極的に支援していきたい旨お伝えしました。

5日間という短い滞在期間でしたが、多くの関係の方々のご協力により、大変充実した台湾訪問となりました。スペースに限りがあり、全ての活動を充分にご紹介することができないのが非常に残念ですが、総研大の持つ人財（人材）の素晴らしさ、また今後の大いなる可能性を改めて認識した5日間でした。今回の台湾訪問をきっかけに、本学の海外学術交流ネットワークが益々発展していくことが期待されます。

【学務課】

● 中高生のための科学セミナー「日本の宇宙科学のいまとこれから」

7月29日（火）、横須賀市自然・人文博物館を会場として、中高生のための科学セミナー「日本の宇宙科学のいまとこれから」を開催しました。このセミナーは総研大の地域社会交流プログラムの一環として毎年この時期に開催しています。今回は講師として、総研大 宇宙科学専攻 教授の阪本成一先生をお迎えし、2時間の講演を行いました。当日は神奈川県多くの地域から76名の中高生（なかには小学生の姿も）が参加してくれました。

講演は先生の自己紹介から始まり、「科学者が宇宙を目指す理由」、「宇宙望遠鏡で見る宇宙」、「探査機でさぐる宇宙」、「宇宙科学の未来」と話が進みました。中高生は所々に流れる映像にとっても惹きつけられていて、また、先生の冗談・身振り手振り・面白い例えに声を出して笑っていました。中高生を飽きさせない構成・工夫にとっても感心させられました。個人的には「地球を

理解するために宇宙を研究する」という視点が新しく、宇宙科学への好奇心が掻き立てられました。

アンケートでは「例えが上手く分かりやすかった。」「自分でも調べてみようと思えるような映像などがあって、興味がわいた。」「絶対に天文学者になる！」などの意見があり、とても好評だったようです。理解度、満足度の項目でも「よく分かった」「分かった」、「面白かった」が大半となっており、中高生には充実した一日になったかと思えます。

最後にこの場を借りて、ご講演いただいた阪本先生、ご協力いただいた「横須賀市自然・人文博物館」の皆様及び参加者の皆様に御礼申し上げます。今後の中高生のための科学セミナーにも是非ご期待ください。



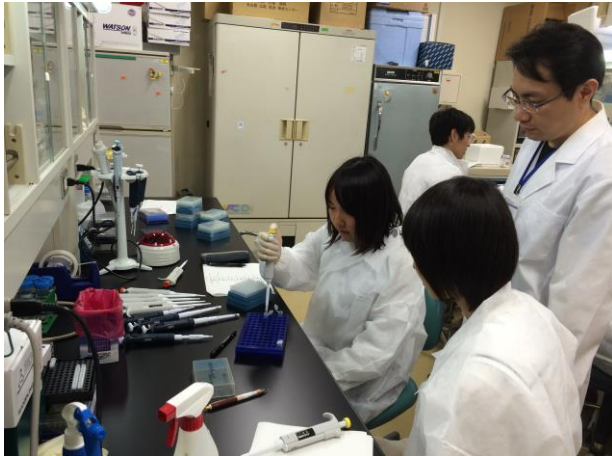
【広報室】

● 先導科学研究科 高校生体験実習 2014

本年度の高校生体験実習は、実習といえども新しい結果を得て研究の面白さを伝えることを目指して計画しました。また、今回の実習の企画は、来年度から先導科学研究科で高校生体験実習を募集する際の実習内容としても活かす予定です。実習の目的は視覚関連遺伝子の適応進化を明らかにすることです。研究の面白さを伝えるため、始めに生徒さんたちにサンプルを集めることから行ってもらいました。具体的にはカジキマグロの仲間の組織サンプル(つまり、切り身)をなるべく多くの種で集めることです。実習を行った7月の終わりはカジキマグロの季節ではなかったためメカジキ以外の種を集めることが大変でしたが、それでも生徒さんたちはマカジキとクロカジキも入手して、総研大葉山キャンパスにやってきました。本年度の参加者は清真学園の生徒さん6名と先生1名のグループです。実習当日、生徒さんたちは初めて扱うピペットマンに最初は戸惑い気味でしたが、助教の五條堀さんの熱心な指導のもと少しずつ使いこなせるようになりました。初日はゲノムDNA抽出と精製、PCRによる視覚関連遺伝子(RH1)の増幅反応までを行いました。



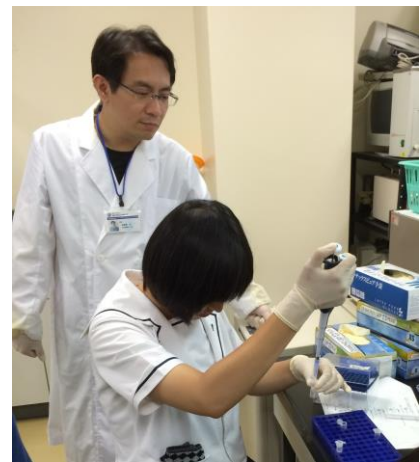
2日目はPCRによる増幅の確認、DNA塩基配列決定の反応と機器での塩基配列の検出を行いました。今回はサンプルの鮮度が刺身で食べられる程ではなかったため、実験がうまくいか心配でした。また、予備実験で用いたメカジキでは結果が得られることを確認していたのですが、マカジキとクロカジキでも同様に結果が出せるかはわかりませんでした。失敗することも研究の大事な糧となると思い実験を進めてみましたが、そのような心配を吹き飛ばすかのように、見事に全サンプル目的遺伝子を増幅することに成功しました。



生徒さんたちは待ち時間に今回入手したメカジキ、クロカジキ、マカジキがどのような生息水深に分布しているかなど、種の生態について調べました。そうしたところ、マカジキとクロカジキは比較的浅い水深に生息し、メカジキは深い水深に生息することがわかりました。このような情報からも視覚の適応進化を見ることができるのではないかと期待が膨らみました。そして実際に、薄暗いところで物の輪郭を見る役割を持つRH1 遺伝子の配列を3種から決定してみました。生徒さんたちの実験結果はとてもきれいで、解析は順調に進みました。解析は高校から持参した PC にフリーの解析プログ

ラムをいれて、高校に帰ってからも解析できる環境を整えて行いました。3種のうち最も深い水深に生息するメカジキでは、RH1 遺伝子のアミノ酸の先頭から 292 番目のアミノ酸がセリンであり、深い海での適応型であることが明らかになりました。また、マカジキとクロカジキは遺伝的に近縁であり、浅い海に適した RH1 遺伝子の型を持つこともわかりました。

このようにカジキマグロの仲間での海の深さに対する適応進化を明らかにすることができたことは、予想以上の成果でした。生徒さんたちもこの結果に興奮し、研究の醍醐味を味わっているようで、高校に帰ってからも魚種を変えて同じ実験ができるように先生にお願いをするほどでした。そのため、今回の実習に必須な DNA 断片を少し小分けにして、高校でも同じ実験ができるように持って帰ってもらいました。生徒さんたちは初日、これまで体験したことのない実験をするためか少し不安な表情をしていましたが、最終日は研究に対する自信を少し身に付けた笑顔で手を振って帰って行きました。



【先導科学研究科】

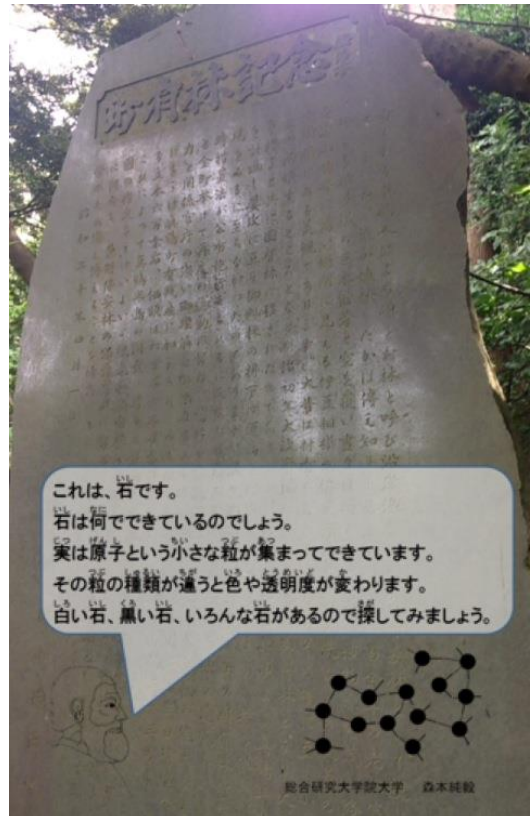
● 総研大レクチャー「ワークショップデザイン講座」

平成 26 年 8 月 8 日から 10 日の 3 日間、総研大レクチャーのワークショップデザイン講座が開催されました。本講義は、サイエンスコミュニケーションの一つの形態である体験型ワークショップをデザインするため、その背景理論やデザイン要素などを整理した講義と実習を組み合わせた授業です。サイエンスコミュニケーションを学びたいという物理分野と生物分野の学生が受講しました。

本講義では、改めてサイエンスコミュニケーションにおけるコミュニケーション研究からの理論について講義を行いました。講義中は受講者から頻繁に質問があり、理系分野の学生のサイエンスコミュニケーション研究に対する興味の高さを感じました。

また実習では、海と林を舞台に、体験することで学ぶこと、そしてその体験をデザインすることの意義を、考えていきました。先導科学研究科の田辺秀之先生は海の生き物の多様性を伝えるため、実際に生き物を捕獲し、それを見せながら生態系について話しました。担当者である奥本は、林の中に AR (拡張現実) という技術を導入し解説が見られる仕掛けを施し、情報通信技術を使ったワークショップを実演しました。

ワークショップデザイン講座なんて題名が分かりにくいから人が集まらないんだよ、と最後に学生に指摘されたので、来年からは科学教育実習のように改名を考えています。



現実の風景に解説が出てくる仕掛け(A R)

【学融合推進センター 助教 奥本素子】

● プレスリリース「分裂酵母の 32 の野生株の全ゲノム配列決定」

【研究概要】

生物の設計図であるゲノム(全遺伝子情報)は染色体という「乗りもの」によって細胞の核に収納されています。さらに、染色体は発生、分化、老化、生殖等の生理機能の制御においても中心的な役割を担っています。我々は、この染色体の機能維持に関わる非コード DNA 領域(我々は インターメアと呼んでいます)を同定するために研究チームとして取り組んで参りました。今回我々は染色体研究のモデル生物「分裂酵母」を研究対象としました。従来の変異株を用いた遺伝学的な解析法では、非コード DNA 領域の機能を解析するのは非常に困難です。そこで、分裂酵母の複数個体のゲノムを比較する(比較ゲノム解析法)という、逆方向のアプローチをとりました。たとえ同種の個体であっても、そこには個体差があり、それはゲノムの多様性に起因します。ゲノム多様性のデータには、機能の重要性を含めた進化上重要なファクターに関する情報が眠っています。そこからインターメアの候補配列を見つけ出すのです。



分裂酵母 ©名古屋市立大学

今回我々は、分裂酵母野生株 32 種

のゲノムを決定し、比較ゲノム解析を行い、インターメア候補領域を特定しました。染色体の機能が異常になると、癌をはじめとする多くの疾患を引き起こすことが知られています。インターメアは染色体の機能維持に関わると考えられるので、今回の成果はそのような染色体異常の発症メカニズムの解明につながる重要な基礎研究となります。

【今回の成果】

- 1、分裂酵母の 32 の野生株の全ゲノム配列を世界に先駆けて決定した（注）。
- 2、それらの配列比較により、ゲノム上での DNA 多様性の分布を解析し、重要な機能を持ちそのような非コード DNA 領域を同定した。

注：分裂酵母の実験株のゲノムの初解読は、2002 年に発表されている。

【今回の成果が社会に及ぼす効果】

- 1、変化しやすい配列としにくい配列が多数見つかかり、進化研究を飛躍的に進歩させる。
- 2、染色体研究の新しい方法論として、この分野のブレークスルーとなる。
- 3、染色体機能の異常で起こる癌をはじめとする様々な疾患の発生機構の解明につながる。

【原著タイトル】

Population genomics of the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*

【掲載誌】

PLOS ONE

【著者・所属】

ジェフリー・フォーセット（総研大）、飯田哲史（遺伝研）、宅野将平（総研大）
杉野隆一（総研大）、角友之（総研大）、久郷和人（東京大）、村幸子（東京大）
小林武彦（遺伝研）、太田邦史（東京大）、中山潤一（名市大）、印南秀樹（総研大）

詳細は下記 URL をご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/news/14208/>

【広報室】

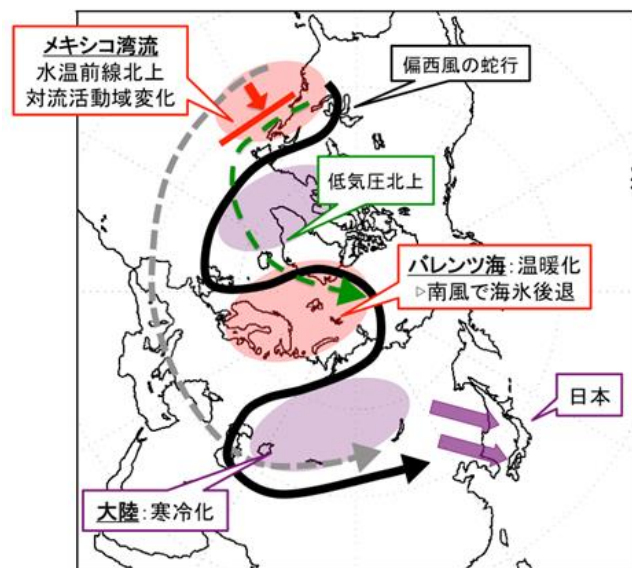
● プレスリリース「メキシコ湾流の流路変化がもたらす北極海の海水減少とユーラシア大陸の異常寒波」

【研究概要】

総合研究大学院大学・複合科学研究科・極域科学専攻の佐藤和敏氏らの研究チームは、近年進行する北極海の温暖化（海水減少）およびユーラシア大陸の異常寒波が、メキシコ湾流の流路（流軸）の変化によって引き起こされていることを、気象データの解析及び数値モデルにより解明しました。

冬季北極海の温暖化と同時に引き起こされる大陸の寒冷化は、最近では社会的にも影響が増大しつつある現象です。これまでは、海氷の減少に起因する中緯度気候への影響が調べられてきましたが、その海水減少の原因をも考慮した、より広域のメカニズムは未解明でした。そこで今回は、北極海に流れ込む暖流の源流であるメキシコ湾流に着目しました。近年メキシコ湾流の流路は北にずれる年が多く、冬季湾流上の対流活動の変化を通じて偏西風の蛇行に影響を与えます。その結果、本来ユーラシア大陸上に流れ込んでいた北大西洋上の暖かい空気は、南風として北極海に入り込みやすくなるため、北極海上を暖めるだけでなく、海水をより北へ押し流すことでその面積を縮小させます。一方、大陸には例年よりも熱が運び込まれなくなるため寒い冬となります。したがって、地球温暖化が進行しているにもかかわらず近年欧州や東アジア域で厳冬年が頻発しているのは、湾流の変動が原因の一つと言え、このメカニズムは中高緯度気候予測に資する極めて重要な知見と言えます。

本研究成果は、2014年8月15日発行の英国の科学雑誌「Environmental Research Letters」に掲載されます。



メキシコ湾流の湾軸北上から日本への寒波到達までの概念図。

©総研大/極地研/海洋機構/東大

【論文全著者】

- ・佐藤 和敏（さとう かずとし）
（総合研究大学院大学 複合科学研究科 極域科学専攻 博士課程4年；
海洋研究開発機構 地球環境観測研究開発センター 研究生）
- ・猪上 淳（いのうえ じゅん）
（情報・システム研究機構 国立極地研究所 准教授；
総合研究大学院大学 複合科学研究科 極域科学専攻 併任准教授；
海洋研究開発機構 地球環境観測研究開発センター 招聘主任研究員）
- ・渡部 雅浩（わたなべ まさひろ）
（東京大学 大気海洋研究所 准教授）

【論文原題】

Influence of the Gulf Stream on the Barents Sea ice retreat and Eurasian coldness during early winter

【発表雑誌名】

Environmental Research Letters、2014年8月15日オンライン掲載
<http://iopscience.iop.org/1748-9326/9/8/084009/article>

詳細は下記URLをご覧ください。
<http://www.soken.ac.jp/news/14199/>

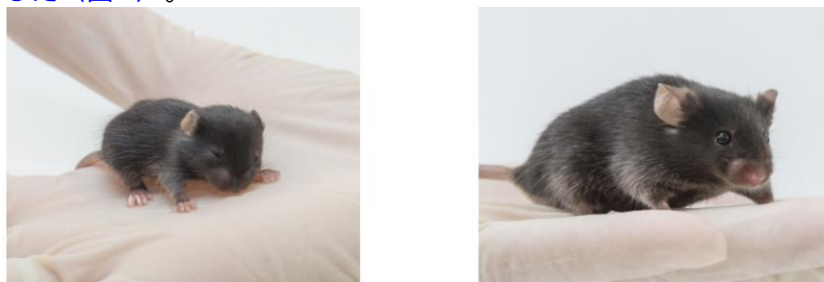
【広報室】

● プレスリリース「学習能力の発達を調節するタンパク質を発見！ ～成長期でののはたらきが、おとなの脳機能を左右する～」

【研究概要】

私たちの脳には、1000億以上の神経細胞（ニューロン）があります。これらは互いに突起（神経突起）を伸ばして結びつくことによりネットワーク（神経回路）を作り出し、記憶、学習、思考、判断、言語といった高いレベルの機能（高次機能）を果たしています。このような神経回路は成長期にさかんに作られ、おとなになってからの脳のはたらきを支えていると考えられています。ただし、そこにどのようなしくみが存在し、どのような分子が関与するのかといったことは、よくわかっていません。

今回、国立遺伝学研究所 形質遺伝研究部門（総合研究大学院大学 生命科学研究科教授兼任）の岩里琢治教授、理化学研究所 脳科学総合研究センターの糸原重美シニア・チームリーダー、大阪大学大学院 連合小児発達学研究科の橋本亮太准教授らのチームは「 α キメリン」というタンパク質に注目し、このタンパク質が脳の機能にどのような影響を与えているかを調べました。 α キメリンには $\alpha 1$ 型（ $\alpha 1$ キメリン）と $\alpha 2$ 型（ $\alpha 2$ キメリン）がありますが、それらの遺伝子をさまざまに改変したマウスを作り、行動実験を行ったのです。その結果まず、**両方のタイプの α キメリンがまったくはたらかないマウスは、正常マウスの20倍も活発に活動することがわかりました。**次に、このマウスはおとなになってからの学習能力が高いことが明らかになりました。 $\alpha 1$ 型だけをはたらかなくしたマウスや、おとなになってから両方のタイプがはたらかないマウスの学習は正常であったことから、**学習能力には、成長期における $\alpha 2$ キメリンのはたらきが鍵であることもわかりました（図1）。**



子どもの脳での $\alpha 2$ -キメリンの働き \rightarrow 調節 \rightarrow おとなの脳での 学習能力

図1： $\alpha 2$ キメリンは子どもの脳で働いて、間接的に、おとなの脳での学習能力を適切なレベルに合わせる。学習能力は神経回路の性能によって左右されるが、 $\alpha 2$ キメリンは回路が作られるときに働いて、その性能を決める過程に関わっていると考えられる。

一方で、健康な人を対象に「 α キメリン遺伝子のタイプ（多型:SNPs）」と人格や能力などとの関係を調べました。すると、 $\alpha 2$ キメリン遺伝子のすぐ近くにある「ある塩基」が「特定の型」の人では、**性格や気質に一定の傾向がみられ、計算能力が高いことが明らかになりました。**

一連の結果は、 **α キメリンが「活動量、学習機能といった幅広い脳機能の制御を担っていること」、「成長期でののはたらきが、おとなになってからの学習機能に影響すること」、「ヒトにおいて、脳機能の個人差に関与すること」などを示唆しており、ヒトの学習障害や精神疾患との関**

連の検証、これらの病気のメカニズム解明などに役立つと期待できます。

【研究体制】

今回の研究は、国立遺伝学研究所 形質遺伝研究部門の岩田亮平研究員（元 総研大大学院生）が中心となり、国立遺伝学研究所 形質遺伝研究部門 岩里琢治研究室、理化学研究所脳科学総合研究センター 行動遺伝学技術開発チーム、大阪大学大学院医学系研究科 情報統合医学講座 精神医学教室との共同研究で行われました。

詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.soken.ac.jp/news/14251/>

【広報室】

【各種募集】 現在公募中の情報

応募期間	イベント名称・提出先	参考URL
平成26年9月30日（火）	平成27年度NAOJシンポジウム 国立天文台研究支援係	http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/kouryuu/koubo/naojsympo/index.html
平成26年12月31日（水）	学融合推進センター 萌芽的研究会開催支援	http://cpis.soken.ac.jp/project/research/houga/index.html
平成27年2月28日（土）	学融合推進センター 出版補助事業 研究論文掲載費等助成	http://cpis.soken.ac.jp/project/research/ronbunhojo/index.html

【イベント情報】

●総研大の行事

9月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
8月1日(金)–9月5日(金)		天文科学専攻 サマースチューデント(夏の体験研究) プログラム 国立天文台	http://guas-astronomy.jp/ss2014.html
1日(月)–3日(水)		総研大レクチャー「科学技術倫理と知的財産権—学術研究の適切なすすめ方 ① 基礎編」 放送大学学園東京オフィス（東京文京学習センター内）	http://www.soken.ac.jp/event/20140901_et_1/
2日(火)–4日(木)		総研大レクチャー「研究者のための社会リテラシー」 生理学研究所	http://www.soken.ac.jp/event/201409_slr/
23日(火・祝)	9:50–17:40	第17回自然科学研究機構シンポジウム 学術総合センター（一橋講堂）	http://www.nins.jp/public_information/sympo17.php

10月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
7日(火)–12日(日)		総研大フレッシュマンウィーク 総研大葉山キャンパス	http://www.soken.ac.jp/event/sokendai-freshman-week-for-fy2014-2/
12日(日)	13:00–16:00	地域・比較文化学専攻 大学院説明会 国立民族学博物館 第3セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/research/education/university/apply/opencampus
16日(木)–17日(金)		生命科学リトリート2014 ヤマハリゾートつま恋	http://www.soken.ac.jp/event/20141016/
26日(日)	13:00–16:00	日本歴史研究専攻 大学院秋季説明会 国立歴史民俗博物館 大会議室	
30日(木)	12:30–14:30	国際日本研究専攻入学試験説明会 国際日本文化研究センター 北研究棟第5共同研究室	http://www.nichibun.ac.jp/ja/education/graduate_s.html

●基盤機関の行事

9月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
7月15日(火)–9月15日(月・祝)		弥生ってなに？！ 国立歴史民俗博物館・企画展示室	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/project/index.html
7月29日(火)–9月15日(月・祝)		伝統の朝顔 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/project/index.html

8月1日(金) - 9月28日(日)		第5回国際科学映像祭 日本国内の科学館、プラネタリウム館、シアターなど 37施設	http://image.sci-fest.net/
8月5日(火) - 9月15日(月・祝)		江戸図屏風と行列 国立歴史民俗博物館	https://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/special/index.html
4日(木) - 11月18日(火)	10:00-17:00	企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」 開幕、内覧会 国立民族学博物館・企画展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/greenland20140904/index
7日(日)	14:00-16:00	連続講座「台湾文化を知る」「高砂族」と向き合った日本人研究者—鹿野忠雄と馬淵東一— 国立民族学博物館・第5セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20140810taiwan
7日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう第356回「グリーンランドの自然と文化」 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/356
7日(日)・10月25日(土)・11月2日(日)	13:30-16:30	ワークショップ「グリーンランドの彫像トゥピラクを作ろう」 国立民族学博物館・企画展示場、第3セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/ws_20140907
10日(水)		特別展「イメージのカー—国立民族学博物館コレクションにさぐる」特別公開 国立民族学博物館・エントランス・特別展示館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20140911power/index
11日(木) - 12月9日(火)	10:00-17:00	特別展「イメージのカー—国立民族学博物館コレクションにさぐる」 開幕 国立民族学博物館・特別展示館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20140911power/index
12日(金)	19:00-20:30	連続講座みんなく×ナレッジキャピタル「イメージの力」をさぐる 『みえない力をあやつる—仮面・神像・装身具』 グランフロント大阪北館1Fナレッジキャピタル The Lab. CAFE Lab.	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20140912-1126
13日(土)	9:00~16:30	KEK一般公開2014~宇宙・科学・生命~ 高エネルギー加速器研究機構 つくばキャンパス	http://openhouse.kek.jp
13日(土)	13:00-15:00	第369回歴博講演会「近年に行ったデジタル展示について」 国立歴史民俗博物館 歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/
13日(土)	14:00-16:00	連続講座「台湾文化を知る」「原住民族ツォウの社会と祭り」 国立民族学博物館・第5セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20140810taiwan
14日(日)	14:20-15:40	【特別展関連】みんなく×MBSラジオpresents「角淳一が迫る！すみからすみまで「イメージの力」」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20140914
15日(月・祝)	13:30-16:30	研究公演「伝統芸能パンスリによる韓国文化の理解」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/sl/p/140915
20日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「イメージのカー—みんなくのコレクションが語るもの」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/436
21日(日)	13:00-16:00	民族芸術学会創立30周年記念大会公開シンポジウムⅠ「接触領域の芸術—美術・音楽・芸能」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20140911power/event#sympo
22日(月)	13:30-16:00	民族芸術学会創立30周年記念大会公開シンポジウムⅡ「イメージの力・再考」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20140911power/event#sympo
23日(火・祝)	14:00-16:00	連続講座「台湾文化を知る」「パイワン族工芸の伝統と今」 国立民族学博物館・第5セミナー室	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20140810taiwan
24日(水)	19:00-20:30	連続講座みんなく×ナレッジキャピタル「イメージの力」をさぐる 『みんなく40周年と「イメージの力」』 グランフロント大阪北館1Fナレッジキャピタル The Lab. CAFE Lab.	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20140912-1126

27日(土)	13:30-15:00	【特別展関連】 トークイベント「イメージの力」 UA(歌手) 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20140911power/event#talk
27日(土)	13:30-15:30	第186回企画展示「木の年代をはかる」 国立歴史民俗博物館 ぐらしの植物苑観察会	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/index.html
28日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう第357回「絵解きの時」 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/357

10月

開催日	時間帯	イベント名称・開催場所	参考URL
4日(土)	9:30-17:00	生理学研究所一般公開 「脳とからだのしくみ:サイエンスアドベンチャー!」	http://www.nips.ac.jp/open/
4日(土)	13:30-15:30	第22回歴博映画の会「我が家の記録」 国立歴史民俗博物館 歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/movie/index.html
4日(土)-5日(日)		国際シンポジウム「言語の記述・記録・保存と通モード言語類型論」 国立民族学博物館・講堂	http://www.bunkaryoku.bunka.go.jp/cgi-bin/kansai/detail.php?id=14140
5日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう第358回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
7日(火)-11月16日(日)		紀州徳川家伝来の楽器-笛- 国立歴史民俗博物館	
11日(土)	10:40-16:30	「南アフリカの過去と現在—ネルソン・マンデラから続く道」 国立民族学博物館・講堂	http://www.bunkaryoku.bunka.go.jp/cgi-bin/kansai/detail.php?id=14151
11日(土)	13:00-15:00	第370回歴博講演会「浮世絵と富士」 国立歴史民俗博物館 歴博講堂	http://www.rekihaku.ac.jp/events/lecture/index.html
12日(日)		研究フォーラム「驚異と怪異:想像界の比較研究に向けて」 国立民族学博物館 第4セミナー室	
13日(月・祝)		モンゴル秋祭り ナマリーンバヤル 国立民族学博物館・講堂	http://www.pref.osaka.lg.jp/kanko/event/index.html
15日(水)	19:00-20:30	連続講座みんなく×ナレッジキャピタル 「イメージの力」をさぐる 『人類の美の追求 -ガラスビーズと鳥の羽の世界』 グランフロント大阪北館1Fナレッジキャピタル The Lab. CAFE Lab.	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20140912-1126
15日(水)-12月14日(日)		国際企画展示 文字がつなぐ-古代の日本列島と朝鮮半島- 国立歴史民俗博物館	
18日(土)	13:30-15:00	みんなくゼミナール「はるかなる北の大地、グリーンランドの自然と人びとの暮らし」 国立民族学博物館・講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/greenland20140904/event
19日(日)	13:00-14:30	【特別展関連】 トークイベント「イメージの力」 三木健 [デザイナー] 国立民族学博物館・本館展示場(ナビひろば)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/special/20140911power/event#talk
19日(日)	14:30-15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう第359回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
24日(金)-25日(土)		三鷹・星と宇宙の日 2014(国立天文台 三鷹 特別公開) 国立天文台 三鷹ほか	http://www.nao.ac.jp/openday/2014/

25日(土)	9:30-16:00	核融合科学研究所 オープンキャンパス 自然科学研究機構 核融合科学研究所	http://www.nifs.ac.jp/welcome/index.html
25日(土)	13:30-15:30	第187回企画展示「いろいろなどんぐりとその利用」 国立歴史民俗博物館 暮らしの植物苑	
25日(土)	13:30-16:30	グリーンランドの彫像トゥピラクを作ろう《石鹼バージョン》 国立民族学博物館 第3セミナー室(本館2F)、本館企画展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/ws_20141025
26日(日)	13:00-14:30	連続講座「みんぱく×ナレッジキャピタル」 特別展「イメージの力」編 特別展ツアー 国立民族学博物館	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20140912-1126
26日(日)	14:30-15:30	みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう第360回 国立民族学博物館・展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon
29日(水)	19:00-20:30	連続講座みんぱく×ナレッジキャピタル 「イメージの力」をさぐる 『描かれた時間』 グランフロント大阪北館1Fナレッジキャピタル The Lab. CAFE Lab.	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/workshop/20140912-1126

【受賞】

○複合科学研究科 情報学専攻 河原林健一 教授
KDD 2014 conference Best paper award (runner up) 受賞

【編集後記】

総研大ニューズレター76号をお届けします。

8月は本格的に暑い日が続きました。皆様は体調を崩されていませんか？どうぞご自愛ください。さて、広報室の仕事の一つとしてプレスリリースがあります。プレスリリースとは、報道機関に対して大学の様々なことを発信して、研究教育成果を広く知ってもらうことを目的とする活動です。もし、メディアに取り上げられれば、総研大、学生さん、先生方に大きなプラスになりますね。嬉しいことに8月は総研大の学生さん、先生方の研究成果のプレスリリースがありました。私が異動してからは初めてのプレスリリースだったので、大変勉強になりました。

個人的に、メディアに取り上げられる条件は、まず「一般の方に分かりやすく表現されていて、好奇心を掻き立てられること」を第一条件として、「身近に感じられること」または「夢を感じられること」かな、と思いました。広報室の一員として、各種情報をメディアに取り上げていただけるよう、これからもできる限りのお手伝いをしたいと思います。



総研大C P I Sからの富士山

広報室 Y. H

◎広報室では、総研大の研究成果をメディアを通じて広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻（基盤機関）との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報室までご連絡ください。

◎各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

◎研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、可能な限り「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

発行 2014年9月3日
編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

広報委員会
神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）
広報室
TEL 046-858-1590 / FAX 046-858-1632
MAIL kouhou1(at)ml.soken.ac.jp
※(at)は@に変換してください。

©2014 SOKENDAI